

## 阪神電車が関わった芦屋のふたつのレジャースポット



打出浜海水浴場〈絵葉書・カラー化〉1905（明治38）年に開かれた関西初の海水浴場（明治39年）



開園したころの芦屋遊園地〈絵葉書・カラー化〉（明治40年代）

1905（明治38）年、阪神電車は打出浜に海水浴場を開設しました。翌年には休憩所3カ所や食堂、脱衣場、貸しボート、写真店の出張所、さらに浴後の淡水ポンプ井戸等が整備され、多くの来場者で賑わいました。しかし、海水浴客が小魚に刺されたり、カキ殻で足を怪我する等のトラブルが増加、これを受けて阪神電車は打出浜での海水浴場経営を打ち

切り、1907（明治40）年に海水浴場を西宮の香櫨園浜に移しました。同じ年、精道村は芦屋川東岸に芦屋遊園地を開園しました。美しい松林を散策できる遊園地は、阪神間の名所として親しまれました。園内には、阪神電車から寄付された休憩所店舗やベンチ・ブランコ・円木運動機・木馬が設置され、多くの人々が憩いの場として訪れました。

# と住宅地・芦屋の発展

神戸の三宮間が開通し、芦屋市内では阪神芦屋駅と打出駅が設けられました。これにより、当時の精道村  
今回は、芦屋の発展の上で重要な役割を果たした阪神電車の開通と芦屋の近代化について紹介します。



問い合わせ  
国際文化推進課 ☎38-2115



阪神打出停留所  
〈現 阪神打出駅〉  
（大正10年代）

芦屋川水力発電所跡  
のちに阪神電車の  
経営に移った



こうして、1905（明治38）年に阪神電車が開通し、市域に初めて駅ができたことによって大阪や神戸へのアクセスが飛躍的に向上しました。  
その後の交通機関の発達を背景に、大阪や神戸の人々が自然豊かで快適な住環境を求めて移り住み、芦屋は優れた住宅地として急速に発展していったのです。

## 市内に今も残る阪神電車に関わる遺構・痕跡

### 阪神電鉄芦屋川橋梁

芦屋川橋梁は、現在、阪神芦屋駅のホームになっていますが、その橋脚は中央部が石積みでその両端をコンクリートで拡張しています。この石積み部分は大正時代以前のものであり、1905（明治38）年の開業時まで遡る可能性があります。



### 阪神打出駅に残る古いホーム跡



阪神打出駅上りホーム  
（提供：阪神電気鉄道株式会社）

現在の阪神打出駅のホームの下には、石組のホーム跡が残っています。このホーム跡は西半分が自然の玉石で作られており、東半分は切石（間知石）の布積となっています。これは前者が一車両で運行していた開業時に設けられたホームの跡で、後者が、1920（大正9）年の2両編成による連結運転開始に際して拡張されたものと考えられます。

### パンフレット『精道村のあゆみ』

— 郊外住宅地・芦屋の幕開け —

芦屋市の前身である精道村（1889～1940年）の歴史を古写真等を掲載してわかりやすく解説しています。



ホームページ



■配布場所 国際文化推進課  
※1人1冊まで